

# 牛久：学校周辺に見る自然

第47号 中根小、ひたち野うしく小

2010年11月08日発行

## ＜秋の水辺公園4 ～ 秋にタンポポ?!＞

水辺公園観察パート4です。「これ、タンポポ？ 秋なのには？」という声があがったので、



簡単にお話ししました。この辺で秋にも咲いているタンポポは、ヨーロッパ原産のセイヨウタンポポやアカミタンポポで、日本のタンポポは春にしか咲きません。花のつくりや種子のつき方、生活のし方の違いについて、『学校周辺に見る自然』第1号と『中根小の自然』第39

号で説明していますので参考にして下さい。ヨーロッパ原産のタンポポは、姿は日本のとそっくりでも、冬以外ほぼ一年中花を咲かせる上に、雄しべの花粉が雌しべにつかなくても種子をつくり発芽できるなど、いろいろな違いがあります。では、外国産は強いからセイヨウタンポポが広がってきたのかというと、そうではなく、都市周辺で表土が荒らされたりといった、日本産が住みにくく外国産が住みやすいような環境が広がってきたためと考えられています。ですから、それぞれのタンポポの分布を調べるとその土地の環境の一面が分かるといわれます。

別の植物をタンポポとまちがえることもあり、なかでも左のブタナは地べたに葉を広げ、長い花茎の先にそっくりの花をつけるので、よくまちがえられます。花茎が枝分かれしていて葉が厚ぼったいなど、よく見ると違いが分かります。生きものの観察では、先入観を捨ててまずよく見るのが大事。目の前の生き物をじっくりながめてみることです。



では最後に、同じグループ（キク科）で黄色系の花をつけていた植物を紹介しておきましょう。中上はコウゾリナ。茎や葉に硬い毛がびっしりでざらざらするので顔剃菜。中下はセイタカアワダチソウ。背が高く実が熟すと綿毛が泡をたてたように見えるから背高泡立草。そして右はアキノノゲシ。ハチやハナアブの仲間がたくさん蜜を吸いにきていました。

【理科支援員  
・宮内】

